

体験グローバル 課題研究「クラス発表会」を実施しました

2017年2月14日、15日に「体験グローバル」の課題研究「クラス発表会」を行いました。各クラスには5人一組の班が8つあり、2回の発表会ですべての班が研究してきたことを発表しました。

研究の対象は、体験グローバルで学習した「技」「特許」「環境」「食」の4つのテーマに立脚しつつも、地元に関する身近なことから、国際的な問題に関するものまで班によって様々でした。10月下旬から研究活動はスタートし、インターネットや書籍等で情報やデータを収集するだけでなく、公的機関や企業を訪問したり、アンケートを依頼したりするなど学校外に足を延ばして調査活動を行い自分たちの研究を深めた班も複数ありました。

発表では、持ち時間7分という限られた時間の中で、作成したレポートに用いた資料や発表用に作成したパワーポイントを用いて聞き手にわかりやすく伝えようと工夫する発表者の姿と、うなずきやメモを取り、興味深く発表を聞く聞き手の姿がありました。発表後には積極的に質問する姿もあり、中には研究の進め方、データの使い方などについて鋭い指摘が入る場面もありました。学会にも似た雰囲気での2時間の発表会を通して、発表者や聞き手・質問者としての在り方も勉強できる機会となりました。

発表は、教員の評価だけでなく、生徒の相互評価も行いました。以下は、その評価シートに書かれた発表者へのコメントです。

- 表やグラフを活用していて、問題点の状況がよりわかりやすく伝わってきた。筋道だっている説明、わかりやすい例で特許や特許に関する問題点について何も知らなかった私でも理解できた。
- 目に見える問題点だけでなく、考える問題点についてまでよく分かった。ただ、問題に対する社会一般の見解だけでなく、提案ももっとあったら面白いと思いました。
- パワーポイントを上手に利用していて視覚的にも分かりやすかったです。課題1つに対してよく考えて提案されていたので現実的にも実現できそうで、とても興味深かったです。また、地方や福山で最新の特許技術であるタッチパネルやVRを利用するという提案に夢が広がりました。
- JA福山に問い合わせるなど、より正確なデータに基づく発表は分かりやすかったし説得力があった。身近な地域の農業でも生産年齢人口が著しく減少していることに驚いた。
- 企業にアンケートをしているし、その質問の項目が研究につながる確なものだったと思いました。ほかの会社だったらどのような返事が返ってくるかととても興味がわきました。
- 山口県まで実地調査に行って、燃料電池に関する取り組みについて詳しく市役所で聞いてくるなど、活動的な調査をしていたことに驚きました。その調査の写真や、そこで得たデータを利用していたのでよりわかりやすかった。

発表を受けて、「技」「特許」「環境」「食」の4つのテーマから2班ずつ代表を決定し、2月28日の学年全体での「全体発表会」と、3月8日の学校全体の「SGH成果発表会」で各テーマ1班ずつが改めて代表発表を行います。そのほかの班も発表後の質問や相互評価を受けて、データの見直しや追加調査などを必要に応じて行い、レポートの加筆修正をしていきます。

